

地域再生と観光の力

現在、国や都道府県のさまざまな政策も含め、「観光を通じての地域再生」への期待が高まっています。地域には潜在的、顕在的な様々な資源（文化資本）が存在し、それらの資源を、いかに観光資源として再構成、プロデュースするのか。この地域観光プロデュースの可能性について、多くの先端事例を紹介しつつ、実学的な視点から、学習します。

地域の人々の「暮らしといのちを輝かせるための地域再生」とは、いかにあるべきか。今回の講座では、6名の講師が、国内や国外で行ったフィールド調査の成果などをわかりやすく解説しつつ、受講生のみなさんが実際に暮らしている地域の具体的課題について、いっしょに分析し、それらへの解決策を考察したいと希望しています。

受講希望の方は下記によりお申し込みください。

- 開講期間 平成21（2009）年 10月29日（木）～12月3日（木）
全6回。各木曜日に開講。毎回、午後6時30分から午後8時まで（90分）
- 実施会場 北海道大学情報教育館（放送大学）3階 スタジオ型多目的中講義室
（札幌市北区北17条西8丁目、地下鉄南北線「北18条駅」から徒歩10～15分）
- 受講資格 満18歳以上の方であればどなたでも受講できます。
- 定 員 60人
- 受講料 3,500円（銀行・郵便局での振込。受講が決定した方に、振込用紙を送付します。
なお、納入した受講料はお返しできません。）
- 修了証書 5回以上受講した方には、最終講義終了時に修了証書を交付します。
- 申込方法 (1) 申込期間 平成21年9月1日（火）～定員に達し次第終了
※申込み受付は先着順となっており、定員に達した場合には申込みを締め切らせていただきますのでご了承願います。
(2) 申込手続 郵便、FAX、Eメール、このいずれかでお申込みください。
お申込みの際は、氏名（ふりがな）、住所、電話番号、生年月日、性別、職業、道民カレッジの受講生であるか（受講生の場合は手帳番号）をご記入ください。
(3) 申 込 先 北海道大学メディア・観光学事務部
〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目
FAX (011) 706-7801
Eメール soumu@imc.hokudai.ac.jp
（件名「公開講座申込み」とご記入ください）
- その他 道民カレッジに入学されている方で、本公開講座を受講し、修了証書の交付を受けた方は、道民カレッジの単位を取得することができます。
- 問い合わせ先 北海道大学メディア・観光学事務部 電話（011）706-5115
（電話による申込みは受け付けできませんのでご了承願います）

日程	講師	テーマ 及び 概要
第1回 10月29日	石森秀三 特任教授	<p>観光パワーが地域を再生する</p> <p>現在の日本が抱える国家的課題の一つは「地域再生」の問題です。少子高齢化が進展する中で、地域の衰退がより進行すると予測されています。観光を核にして交流人口の拡大を図ることによって地域再生を実現できる可能性があります。観光は「感動、幸せ、癒し、歓び、創造、学び」などにつながるパワーを秘めています。観光パワーが地域を再生する可能性を明らかにします。</p>
第2回 11月5日	佐藤誠 特任教授	<p>なりわい興しのふるさと起業塾</p> <p>世界は、経済成長ではなくて、安定した暮らしの定常社会へ移行していくのではないのでしょうか。地方経済は、ハードウエア産業やソフトウエア産業の時代には大都市中心の高度成長に取り残されてきた観があります。これからは暮らしといのちを輝かすライフウエア産業勃興の場として、美しい田園が勃興するでしょう。北大CATSは、東京のふるさと回帰支援センターと連携して、地方での「なりわい」興しのプロジェクトを「ふるさと起業塾」と銘打って展開します。</p>
第3回 11月12日	吉田順一 教授	<p>観光立国オーストリア 《ゲヌス・レギオン = 歓交地域》とは</p> <p>オーストリア農業省の「ゲヌス・レギオン」という戦略は、日本の地域主導による観光の1つのモデルとして、今後、大きな関心を集めると考えられます。日本では「観光によって地域は再生する…」という議論がありますが、オーストリアの事例は逆で、EU等の経済支援で、まず、農業が復活し、そのことで、地域のライフスタイル、農業景観が洗練し、地域魅力が格段に拡大しました。その結果、次世代のスマートツーリズムが進展しています。</p>
第4回 11月19日	山村高淑 准教授	<p>ツーリズムは地方商店街の再生に貢献できるのか</p> <p>街おこしにおける「消費型観光」から「創造型観光」へのシフト。私たちは今、産業社会から情報社会への文明史的な大転換期にいます。こうした中、「観光」のあり方自体が急激に変化し、アニメ作品など、地域が想像し得なかった素材が観光資源になったりしています。国内地方商店街の最新の取り組み事例を具体的に紹介しつつ、これらの動きの意義と可能性について多角的に考えてみたいと思います。</p>
第5回 11月26日	敷田麻実 教授	<p>NPOによる観光まちづくりの基本</p> <p>地域再生のための「観光まちづくり」への期待が膨らんでいます。しかしその一方で、札幌と道内各地のように、都市・地方格差は開くばかりです。その背景には、地域と都市のいびつな関係があります。そこで、地方と都市の関係を再考し、都市住民も地域社会も豊かになる、観光による地域再生プランを考えます。</p>
第6回 12月3日	内田純一 准教授	<p>観光地域のイノベーション戦略</p> <p>真に必要なのは「国の戦略」ではなく「地域の戦略」です。地域自身がイノベーションへの道を模索するために、イノベーション論から言えることはなにか。また、疲弊する地方部から、いかにして観光分野のイノベーションを創出すべきなのか。このようなテーマに挑戦すべく、世界各国の先進事例を紹介しながら考察を深めていきます。</p>

講師紹介（50音順）



石森秀三（いしもり・しゅうぞう）

北海道大学 観光学高等研究センター長・特任教授

1945年神戸市生まれ。甲南大学経済学部卒業。ニュージーランド・オークランド大学に留学後、京都大学人文科学研究所研究員、国立民族学博物館教授、同博物館研究部長などを経て、2006年から北海道大学観光学高等研究センター長。観光立国懇談会委員、国土審議会専門委員、文化審議会専門委員などを歴任



内田純一（うちだ・じゅんいち）

北海道大学 観光学高等研究センター 准教授

1971年関東地方で生まれる。北海道大学大学院修了。博士（国際広報メディア）。AFLAC日本社の情報システム部門・営業マーケティング部門での7年間の実務経験を経て、2002年に北海道大学大学院国際広報メディア研究科助手に転じ、2007年より現職。



佐藤誠（さとう・まこと）

北海道大学 観光学高等研究センター 特任教授

1944年生まれ。九州大学大学院経済学研究科博士課程中退。経済学博士。田園リゾートとツーリズム開発を研究し、阿蘇や天草でツーリズムや田園リゾート関連のNPO活動に従事。主著は『リゾート列島』（岩波新書1990年）、『グリーンホリデーの時代』（岩波書店2002年）など。



敷田麻実（しきた・あさみ）

北海道大学 観光学高等研究センター 教授

1960年、北大ゆかりの中谷宇吉郎と同じ石川県加賀市生まれ。博士（学術）。高知大学栽培漁業学科卒業後、石川県水産課に勤務。豪州ジェイムスック大学大学院、金沢大学大学院社会環境科学研究科修了後、金沢工業大学情報マネジメント学科教授を経て現職。野生生物保護学会会長。



山村高淑（やまむら・たかよし）

北海道大学 観光学高等研究センター 准教授

1971年浜松市生まれ。北海道大学農学部卒、民間企業勤務、中国留学を経て東京大学大学院博士課程修了（工学博士）。研究テーマは文化遺産の保存と活用、芸術・文化の創造と多様な価値の共存、哲学・思想としての旅の意義。中国大陸を中心とした長期現地調査を展開中。



吉田順一（よしだ・じゅんいち）

北海道大学 観光学高等研究センター 教授

1953年大阪市生まれ。国立ウィーン経済大学博士課程修了。社会・経済科学博士。通算20年以上の欧州在住経験を持つ。流通科学大学助教授、神戸大学大学院（経営学研究科）教授、大手前大学副学長等を経て現職。専攻分野はマーケティング（ブランド文化・消費文化分析）、文化デザイン論。